

## 河川事業の再評価項目調書

事業名	小瀬川水系直轄総合水系環境整備事業		事業主体 中国地方整備局
所在地	小瀬川直轄管理区内		
事業概要	<p><b>事業の目的</b></p> <p>小瀬川は、広島県西部の飯ノ山に源を発し、狭隘な山間を南下しながら、途中広島県と山口県の県境を成す川となる。その後、ほぼ本川に匹敵する規模の支川玖島川と合流した後、直轄の弥栄ダムで造られた「弥栄湖」付近から流れを東向きに変え、左岸広島県大竹市、右岸山口県和木町の位置で瀬戸内海に注いでいる。</p> <p>小瀬川は、古くから現在に至るまで安芸国（広島県）と周防国（山口県）の‘国分け’の川としての歴史を持ち、領地紛争が度々繰り返されてきたが、江戸時代末期に国境を画定した後は活発に干拓が進められ、徐々に現在の河口部が形づくられていった。近年は、河口部埋立地が岩国・大竹工業地帯として重化学工業を中心にくまびしい発展を遂げ、物流や人々の交流も盛んになっている。</p> <p>河口部を除き小瀬川には、現在でも豊かな自然や、昔から続く左右岸異なる文化が存在している。特に昔、両国を結んでいた木野の渡し場付近には、山口県側に安政の大獄で処刑された萩の思想家吉田松蔭が故郷を忍んで詠んだ歌碑が立つほか、子ども達の健やかな成長を祈る独特の風習である「ひな流し」の行事が現在でも続いている。</p> <p>このような歴史や固有の文化を育んできた小瀬川の河川空間の保全や利用を適正に行うため、建設省（現国土交通省）、広島県、山口県、沿川2市4町（当時）および学識経験者から成る小瀬川河川環境管理協議会を発足し、平成2年3月に「小瀬川水系河川空間管理計画」を策定した。</p> <p>本事業は、上記に示した流域全体の環境整備計画や地元要望に基づいて、小瀬川の豊かな自然環境や文化を活かした交流の場、環境学習・自然体験等の拠点づくりを行うことにより、貴重な水辺空間の利活用の促進を図るものである。</p> <p><b>事業の内容</b></p> <p>（小瀬川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津原箇所（水辺の楽校）[H11～H12 年度] 高水敷整正 3,130m<sup>3</sup>、張芝 510m<sup>2</sup>、ワンド等</li> <li>・元町箇所 [H13～H14 年度] 親水護岸 3,200m<sup>2</sup>、坂路、階段等</li> <li>・和木箇所 [H14～H16 年度] 親水護岸 2,850m<sup>2</sup>、坂路、階段等</li> <li>・穂仁原箇所（水辺の楽校）[H17～H18 年度] 高水敷整正、散策路、ワンド等</li> <li>・本町箇所 [計画中] 親水護岸、坂路、階段等</li> <li>・小瀬箇所 [計画中] 親水護岸、坂路、階段等</li> </ul> <p style="text-align: right;">※ [ ]は実施年度</p>		
事業着手年度	平成 11 年度～		
総事業費	1,200 百万円	既投資額	H17 年度末時点まで 765 百万円 (進捗率 64%)

# 河川事業の再評価項目調書

事業名	小瀬川水系直轄総合水系環境整備事業	事業主体 中国地方整備局								
再評価の視点	<p>①事業必要性に関する視点</p> <p><b>ア) 事業をめぐる社会情勢の変化</b></p> <p>〈事業目的に関する諸状況〉</p> <p>1) 現状での課題</p> <p>小瀬川の下流部は、高水敷も見られないため、グラウンドや河川公園等が整備されておらず、河川空間が利用され難い状況である。また、左右岸の護岸は急勾配なコンクリート張りであり、古く、親水性に乏しい状況となっている。さらに、堀込み河道の形状により河岸に沿った狭い車道を散歩やジョギング等に利用する人が見られるが、車が行き交う狭い車道で危険な状態である。</p> <p>また中流部は、山間狭隘部を流れており、寄州等の河川空間がひな流しや夏祭り等の住民の貴重な空間になっているにも係らず、河原には樹木等が繁茂し水辺に近づき難い状況となっている。</p> <p>〈地域の状況〉</p> <p>1) 地域の開発状況</p> <p>小瀬川水系の主要な環境整備事業箇所である広島県大竹市の人口は、平成 17 年 4 月時点で約 3 万 1 千人、山口県和木町は約 7 千人である。両市町は、共に工業都市として発展しており、平成 16 年度の製造品出荷額は、合わせて約 5,700 億円と巨額で、大竹市が広島県内の第 8 位、和木町が山口県内の第 6 位の位置を占めている。</p> <p>また、観光に関しても、大竹市および和木町では、大竹市北部の「三倉岳<sup>みくらだけ</sup>県立自然公園」や「弥栄湖」、小瀬川に近接する和木町「蜂ヶ峰<sup>ほちがみね</sup>総合公園」など、小瀬川流域の豊かな自然環境を活かし、積極的に取り組んでおり、近年、観光客数も増加傾向にある。</p> <p>2) 河川の利用状況</p> <p>河口から中市堰付近までの下流部は、市街地の貴重な水辺空間として、散策やウォーキング等の交流の場・健康づくりの場としての利用のほか、釣りや干潮時の水遊びなど日常的な利用が盛んである。また、中市堰から弥栄ダムまでの中流部は、豊かな自然の中で釣りや水遊びに訪れる人が多いほか、湾曲部の広い寄州は、伝統行事である「ひな流し」や「とんど」、夏祭りなど地域活動の拠点となっている。</p> <p>河川水辺の国勢調査（空間利用実態調査）によれば、小瀬川の河川利用は、夏期の天候に左右されやすい水遊びの利用者が大きく変動しているが、全体としてはほぼ増加傾向にあり、近年の利用者数は概ね 15 万人超と考えられる。なお、利用目的別の内訳では、特に散策等の利用の割合が多くなっている。</p> <p>3) 関連事業との整合</p> <p>沿川の広島県大竹市、山口県和木町・岩国市では、互いの交流や連携に関する計画を策定しているほか、河川空間の親水性や優れた景観の保全・創出、自然観察等の教育活動の充実、清掃や除草についてボランティアの協力を得るなど、魅力あるまちづくりを目指した様々な取り組みを行っている。特に、和木町では、元町・本町および和木箇所親水護岸をウォーキングロードとして位置付け、住民の健康づくりに役立っている。</p> <table border="1" data-bbox="427 1697 1433 1861"> <tr> <td colspan="2">広島県（大竹市）：「第四次大竹市総合計画（H13.3）」より抜粋</td> </tr> <tr> <td>広域連携の推進</td> <td>・近隣の市町村との広域連携により、市民生活の魅力向上に努める。</td> </tr> <tr> <td>教育活動の充実</td> <td>・地域・学校間交流、自然観察、ボランティアなどの体験的活動を重視した学習の時間を充実させる。</td> </tr> <tr> <td>地域の協働</td> <td>・都市公園については、自治会等地域ボランティアの協力を得て、地域の公園として清掃や除草などの自主的な管理を目指す。</td> </tr> </table>		広島県（大竹市）：「第四次大竹市総合計画（H13.3）」より抜粋		広域連携の推進	・近隣の市町村との広域連携により、市民生活の魅力向上に努める。	教育活動の充実	・地域・学校間交流、自然観察、ボランティアなどの体験的活動を重視した学習の時間を充実させる。	地域の協働	・都市公園については、自治会等地域ボランティアの協力を得て、地域の公園として清掃や除草などの自主的な管理を目指す。
広島県（大竹市）：「第四次大竹市総合計画（H13.3）」より抜粋										
広域連携の推進	・近隣の市町村との広域連携により、市民生活の魅力向上に努める。									
教育活動の充実	・地域・学校間交流、自然観察、ボランティアなどの体験的活動を重視した学習の時間を充実させる。									
地域の協働	・都市公園については、自治会等地域ボランティアの協力を得て、地域の公園として清掃や除草などの自主的な管理を目指す。									

# 河川事業の再評価項目調書

事業名	小瀬川水系直轄総合水系環境整備事業	事業主体 中国地方整備局																
再評価の視点	① 事業必要性に関する視点	<table border="1"> <tr> <td>広域連携の推進</td> <td>・人・物・情報が交流する活力ある都市づくりを進める。</td> </tr> <tr> <td>環境保全</td> <td>・河川沿いの緑地・公園について、豊かで美しい自然や歴史的な町並み等との調和を図りながら、保全・創出に努める。</td> </tr> <tr> <td>親水性の確保</td> <td>・人々が身近に水辺に近づき、親しむことのできる河川空間の創出に努める。</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション効果の拡大</td> <td>・公園等を連結する緑道の設置、河川沿い緑地の活用等により、有機的な緑地の配置を図る。</td> </tr> <tr> <td>景観保全</td> <td>・市街地における貴重なオープンスペースである河川空間について、地域を代表する優れた景観を形成するものとして保全・創出を図る。</td> </tr> </table> <p>山口県（和木町）：「和木町第三次総合計画（H8.6）」より抜粋 ：「和木町健康づくりウォーキングロード計画（H14）」より抜粋</p> <table border="1"> <tr> <td>広域交流の推進</td> <td>・広島広域都市圏連絡協議会や弥栄ダム活用推進協議会等を通じた交流を推進する。</td> </tr> <tr> <td>環境美化の推進</td> <td>・環境美化意識を向上させるとともに美しい町並みを保つため、町内一斉清掃やクリーンアップ作戦等の環境美化活動を推進する。</td> </tr> <tr> <td>事業計画</td> <td>・町民参加による健康づくり計画：小瀬川の護岸整備を利用した、保健相談センターによる、町民参加による健康づくりの推進。</td> </tr> </table>	広域連携の推進	・人・物・情報が交流する活力ある都市づくりを進める。	環境保全	・河川沿いの緑地・公園について、豊かで美しい自然や歴史的な町並み等との調和を図りながら、保全・創出に努める。	親水性の確保	・人々が身近に水辺に近づき、親しむことのできる河川空間の創出に努める。	レクリエーション効果の拡大	・公園等を連結する緑道の設置、河川沿い緑地の活用等により、有機的な緑地の配置を図る。	景観保全	・市街地における貴重なオープンスペースである河川空間について、地域を代表する優れた景観を形成するものとして保全・創出を図る。	広域交流の推進	・広島広域都市圏連絡協議会や弥栄ダム活用推進協議会等を通じた交流を推進する。	環境美化の推進	・環境美化意識を向上させるとともに美しい町並みを保つため、町内一斉清掃やクリーンアップ作戦等の環境美化活動を推進する。	事業計画	・町民参加による健康づくり計画：小瀬川の護岸整備を利用した、保健相談センターによる、町民参加による健康づくりの推進。
		広域連携の推進	・人・物・情報が交流する活力ある都市づくりを進める。															
環境保全	・河川沿いの緑地・公園について、豊かで美しい自然や歴史的な町並み等との調和を図りながら、保全・創出に努める。																	
親水性の確保	・人々が身近に水辺に近づき、親しむことのできる河川空間の創出に努める。																	
レクリエーション効果の拡大	・公園等を連結する緑道の設置、河川沿い緑地の活用等により、有機的な緑地の配置を図る。																	
景観保全	・市街地における貴重なオープンスペースである河川空間について、地域を代表する優れた景観を形成するものとして保全・創出を図る。																	
広域交流の推進	・広島広域都市圏連絡協議会や弥栄ダム活用推進協議会等を通じた交流を推進する。																	
環境美化の推進	・環境美化意識を向上させるとともに美しい町並みを保つため、町内一斉清掃やクリーンアップ作戦等の環境美化活動を推進する。																	
事業計画	・町民参加による健康づくり計画：小瀬川の護岸整備を利用した、保健相談センターによる、町民参加による健康づくりの推進。																	
<p><b>4) 河川環境等を取りまく状況、地域の協力体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津原箇所（中津原水辺の楽校）については、地元自治会・老人会・木野小学校代表等で構成される水辺の楽校推進協議会を結成し整備内容の詳細、利用方法、管理方法について検討した。また、水辺の楽校完成後は、地元自治会等と管理協定を締結し、除草・清掃活動等について市や管理委員会で役割分担を決め、良好に管理されている。さらに、PTAと教育ボランティアで構成される「木野っ子応援団」が、水辺の楽校のベンチや花壇を製作したほか、総合学習時の指導に当たるなど、継続的な協力体制が整っている。</li> <li>・元町箇所、和木箇所の親水護岸整備については、和木町の健康づくり計画（ウォーキングコース）に関する要望や隣接医療機関のリハビリテーション治療に関する活用方法などの意見を反映した。また、完成箇所については、地元自治会、漁協、NPO法人等による河川清掃が定期的に行われている。</li> <li>・その他、中津原・穂仁原箇所などで、伝統行事である「ひな流し」や「とんど」が自治会主体で行われるほか、中津原箇所の「木野両国夏まつり」、本町・和木箇所の「大竹和木・川まつり花火大会（観光協会）」「小瀬川スタンプラリー（中国電力㈱他）」、「大和橋こいのぼり（大竹市）」等の様々イベントが積極的に開催されるなど、地域活動の盛んな地域となっている。</li> </ul> <p><b>イ) 事業の投資効果</b></p> <p><b>1) 主要工事の内容変化、工事単位の変化等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 11 年度から、中津原箇所で「総合的な学習の時間」への支援、周辺住民の交流の場、ひな流し会場等として利用されている河川空間の利用促進のため水辺の楽校整備に着手。</li> <li>・平成 13 年度から、元町・和木箇所で沿川住民の憩いの場・交流の場の創出、健康づくりの推進のため、親水護岸（小瀬川ウォーキングロード）の整備に着手。</li> <li>・平成 17 年度から、穂仁原箇所で「総合的な学習の時間」への支援、周辺住民の交流の場、ひな流し会場等として利用されている河川空間の利用促進のため水辺の楽校整備に着手。</li> </ul> <p><b>2) 効果の変化</b></p> <p><b>① 利活用状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川水辺の国勢調査（空間利用実態調査）の平成 9 年と 15 年結果を比較すれば、その間に完成した元町箇所親水護岸、中津原箇所水辺の楽校整備により、年間利用者数が少なくとも約 3 万人増加した。</li> </ul>																		

# 河川事業の再評価項目調書

事業名	小瀬川水系直轄総合水系環境整備事業	事業主体 中国地方整備局																																											
再評価の視点	<p>① 事業必要性に関する視点</p> <p>・この他、元町・和木箇所河道整備や中津原水辺の楽校整備により、小瀬川への関心や利活用が高まったことにより、河川清掃活動への参加者が増加傾向にある。なお、水生生物調査については、天候や児童数の減少による変動はあるものの一定の人数は維持されている。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <table border="1" style="margin: 10px 0;"> <caption>河川清掃 参加人数の推移</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>参加人数(人)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H13</td><td>1,100</td></tr> <tr><td>H14</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>H15</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>H16</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>H17</td><td>2,000</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin: 10px 0;"> <caption>水生生物調査 参加人数の推移</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>参加人数(人)</th><th>児童数(人)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H13</td><td>80</td><td>80</td></tr> <tr><td>H14</td><td>80</td><td>80</td></tr> <tr><td>H15</td><td>80</td><td>80</td></tr> <tr><td>H16</td><td>40</td><td>60</td></tr> <tr><td>H17</td><td>50</td><td>50</td></tr> </tbody> </table> </div> <p>② 地域住民の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年度に調査された「川の通信簿(※1)」による評価を見ると、整備箇所において調査が実施された元町箇所河道整備で三つ星(☆☆☆)「かなり良い部分があり一定の満足感を味わえる」との評価が得られており、特に良かった点として、「散策道がきれいで利用しやすかった」「護岸整備により景観が良くなった」などとなっている。</li> <li>(※1) 川の通信簿: 河川空間の現状を、市民団体との協働作業で、「自然の豊かさ」「水辺のはいりやすさ」ど16項目で点検し、5段階で満足度を評価するもの。</li> <li>木野小学校では、子ども達が中学校に入学し大きな集団に入った際に萎縮したり、持っている力を十分発揮できない傾向があることを知り、中津原箇所水辺の楽校整備を契機に結成された木野っ子応援団との遊びや奉仕活動、道徳教育等を通じ、コミュニケーション力や自覚を促す教育に取り組んできた。この結果、子ども達に、自分の長所を見つけたり、自己存在感を持ち始めるなどの変化が見られるようになったと評価している。</li> </ul> <p>3) 費用対効果の分析(試行)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川の環境整備の経済評価手法については未だ確立されていないが、「河川に係る環境整備の経済評価の手引き(試案)」(平成12年6月 河川に係る環境整備の経済評価委員会)に掲載されている手法を参考に以下のとおり試算した。</li> </ul> <p>〈具体的な試行内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>便益の計測には、CVM法(仮想市場法)を適用した。また、支払意志額(WTP)は、流域住民を対象としたアンケート調査に基づき、小瀬川水系環境整備事業(完成～計画中の全事業)に関する負担金を尋ねる方法(※2)で算出した。</li> <li>(※2)「あなたの世帯では、負担金が毎月いくらまでならば事業に賛成されますか?」</li> <li>小瀬川水系の環境整備の経済評価手法については未だ確立されていないが、「河川に係る環境整備の経済評価の手引き(試案)」(平成12年6月 河川に係る環境整備の経済評価委員会)に掲載されている手法を参考に以下のとおり試算した。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>CVMアンケート実施概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実施内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配付票数</td> <td>1,500票 (大竹市, 和木町, 岩国市, 美和町)</td> <td>無作為配付(1kmメッシュ世帯数に応じメッシュ毎に配付数を按分)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">回収票数</td> <td>全体</td> <td>330票(全体回収率22%)</td> </tr> <tr> <td>有効</td> <td>313票(有効回答率21%)</td> </tr> <tr> <td>支払意志額</td> <td>405円/世帯/月(中央値)</td> <td>[参考] 412円/世帯/月(平均値)</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	参加人数(人)	H13	1,100	H14	1,200	H15	2,000	H16	2,000	H17	2,000	年度	参加人数(人)	児童数(人)	H13	80	80	H14	80	80	H15	80	80	H16	40	60	H17	50	50	項目	実施内容	備考	配付票数	1,500票 (大竹市, 和木町, 岩国市, 美和町)	無作為配付(1kmメッシュ世帯数に応じメッシュ毎に配付数を按分)	回収票数	全体	330票(全体回収率22%)	有効	313票(有効回答率21%)	支払意志額	405円/世帯/月(中央値)	[参考] 412円/世帯/月(平均値)
年度	参加人数(人)																																												
H13	1,100																																												
H14	1,200																																												
H15	2,000																																												
H16	2,000																																												
H17	2,000																																												
年度	参加人数(人)	児童数(人)																																											
H13	80	80																																											
H14	80	80																																											
H15	80	80																																											
H16	40	60																																											
H17	50	50																																											
項目	実施内容	備考																																											
配付票数	1,500票 (大竹市, 和木町, 岩国市, 美和町)	無作為配付(1kmメッシュ世帯数に応じメッシュ毎に配付数を按分)																																											
回収票数	全体	330票(全体回収率22%)																																											
	有効	313票(有効回答率21%)																																											
支払意志額	405円/世帯/月(中央値)	[参考] 412円/世帯/月(平均値)																																											

# 河川事業の再評価項目調査書

事業名	小瀬川水系直轄総合水系環境整備事業	事業主体 中国地方整備局																														
再評価の視点	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="357 315 906 349">本事業に関する費用（総費用）</th> <th data-bbox="912 315 1461 349">本事業の効果（総便益）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="357 353 906 869"> <p>■建設費</p> <p>総事業費(※1) = 1,200百万円</p> <p>現在価値事業費(※2) = 1,143百万円 ①</p> <p>■維持管理費(※3) = 36百万円 ②</p> <p>総費用（C） ①+② = 1,179百万円</p> <p>※1：完成から計画中の全箇所に必要な費用                      ※2：将来または過去の費用を現在の価値に換算(社会的割引率4%考慮)                      ※3：維持管理費として実績値、計画値を考慮</p> </td> <td data-bbox="912 353 1461 869"> <p>■便益算定原単位</p> <p>支払意志額(※4) = 405円/世帯/月</p> <p>受益世帯数(※5) = 10,436世帯</p> <p>■便益</p> <p>年便益額 = 51百万円                      (405円/世帯/月×10,436世帯×12ヵ月)</p> <p>年便益総和(※6) = 1,166百万円 ③</p> <p>■残存価値(※7) = 103百万円 ④</p> <p>総便益（B） ③+④ = 1,270百万円</p> <p>※4：CVMアンケートによりランダムトリック法にて算定                      ※5：アンケート結果より事業範囲周辺2km内世帯数を計上                      ※6：年便益額を評価期間で累計(社会的割引率4%考慮)                      ※7：評価対象期間末時点で当事業に残っている価値</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="357 871 1461 904" style="text-align: center;">評価対象期間内 = 整備期間+50年</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="357 907 1461 940" style="text-align: center;">費用対効果分析の結果 B/C = 1.08</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="357 943 1461 1021"> <p>〈参考資料〉</p> <p>「河川に係る環境整備の経済評価の手引き(試案)」(平成12年6月)</p> <p>「治水経済調査マニュアル(案)」(平成17年4月)</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="331 1050 585 1081">ウ) 事業の進捗状況</p> <p data-bbox="357 1097 601 1128">1) 事業の主な経緯</p> <table data-bbox="411 1135 1123 1279"> <tr> <td>平成12年度</td> <td>：</td> <td>中津原箇所</td> <td>（水辺の楽校）</td> <td>完成</td> </tr> <tr> <td>平成14年度</td> <td>：</td> <td>元町箇所</td> <td>（親水護岸）</td> <td>完成</td> </tr> <tr> <td>平成16年度</td> <td>：</td> <td>和木箇所</td> <td>（親水護岸）</td> <td>完成</td> </tr> <tr> <td>平成17年度～</td> <td>：</td> <td>穂仁原箇所</td> <td>（水辺の楽校）</td> <td>事業中</td> </tr> </table> <p data-bbox="376 1294 536 1326">〈今後の予定〉</p> <p data-bbox="386 1341 724 1373">本町箇所（親水護岸）</p> <p data-bbox="414 1377 1466 1447">堤防上の散策路が河川から離れる、危険な踏切を渡らなければ小瀬川を周回できないなどの利活用に支障を来している状況を改善し、ウォーキングロードを完成させる。</p> <p data-bbox="386 1451 724 1482">小瀬箇所（親水護岸）</p> <p data-bbox="414 1487 1402 1518">河川に係る歴史（木野渡し場）に配慮した環境整備を小瀬箇所において推進する。</p>		本事業に関する費用（総費用）	本事業の効果（総便益）	<p>■建設費</p> <p>総事業費(※1) = 1,200百万円</p> <p>現在価値事業費(※2) = 1,143百万円 ①</p> <p>■維持管理費(※3) = 36百万円 ②</p> <p>総費用（C） ①+② = 1,179百万円</p> <p>※1：完成から計画中の全箇所に必要な費用                      ※2：将来または過去の費用を現在の価値に換算(社会的割引率4%考慮)                      ※3：維持管理費として実績値、計画値を考慮</p>	<p>■便益算定原単位</p> <p>支払意志額(※4) = 405円/世帯/月</p> <p>受益世帯数(※5) = 10,436世帯</p> <p>■便益</p> <p>年便益額 = 51百万円                      (405円/世帯/月×10,436世帯×12ヵ月)</p> <p>年便益総和(※6) = 1,166百万円 ③</p> <p>■残存価値(※7) = 103百万円 ④</p> <p>総便益（B） ③+④ = 1,270百万円</p> <p>※4：CVMアンケートによりランダムトリック法にて算定                      ※5：アンケート結果より事業範囲周辺2km内世帯数を計上                      ※6：年便益額を評価期間で累計(社会的割引率4%考慮)                      ※7：評価対象期間末時点で当事業に残っている価値</p>	評価対象期間内 = 整備期間+50年		費用対効果分析の結果 B/C = 1.08		<p>〈参考資料〉</p> <p>「河川に係る環境整備の経済評価の手引き(試案)」(平成12年6月)</p> <p>「治水経済調査マニュアル(案)」(平成17年4月)</p>		平成12年度	：	中津原箇所	（水辺の楽校）	完成	平成14年度	：	元町箇所	（親水護岸）	完成	平成16年度	：	和木箇所	（親水護岸）	完成	平成17年度～	：	穂仁原箇所	（水辺の楽校）	事業中
本事業に関する費用（総費用）	本事業の効果（総便益）																															
<p>■建設費</p> <p>総事業費(※1) = 1,200百万円</p> <p>現在価値事業費(※2) = 1,143百万円 ①</p> <p>■維持管理費(※3) = 36百万円 ②</p> <p>総費用（C） ①+② = 1,179百万円</p> <p>※1：完成から計画中の全箇所に必要な費用                      ※2：将来または過去の費用を現在の価値に換算(社会的割引率4%考慮)                      ※3：維持管理費として実績値、計画値を考慮</p>	<p>■便益算定原単位</p> <p>支払意志額(※4) = 405円/世帯/月</p> <p>受益世帯数(※5) = 10,436世帯</p> <p>■便益</p> <p>年便益額 = 51百万円                      (405円/世帯/月×10,436世帯×12ヵ月)</p> <p>年便益総和(※6) = 1,166百万円 ③</p> <p>■残存価値(※7) = 103百万円 ④</p> <p>総便益（B） ③+④ = 1,270百万円</p> <p>※4：CVMアンケートによりランダムトリック法にて算定                      ※5：アンケート結果より事業範囲周辺2km内世帯数を計上                      ※6：年便益額を評価期間で累計(社会的割引率4%考慮)                      ※7：評価対象期間末時点で当事業に残っている価値</p>																															
評価対象期間内 = 整備期間+50年																																
費用対効果分析の結果 B/C = 1.08																																
<p>〈参考資料〉</p> <p>「河川に係る環境整備の経済評価の手引き(試案)」(平成12年6月)</p> <p>「治水経済調査マニュアル(案)」(平成17年4月)</p>																																
平成12年度	：	中津原箇所	（水辺の楽校）	完成																												
平成14年度	：	元町箇所	（親水護岸）	完成																												
平成16年度	：	和木箇所	（親水護岸）	完成																												
平成17年度～	：	穂仁原箇所	（水辺の楽校）	事業中																												

## 河川事業の再評価項目調書

事業名		小瀬川水系直轄総合水系環境整備事業	事業主体 中国地方整備局
再評価の視点	① 事業必要性に関する視点	<b>2) 事業の進捗状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで環境整備を行った事業については、周辺のまちづくりと合わせ、河川の利用目的に適した構造（親水性、利便性、景観の向上）とするため、地域住民や地元自治体等からなる協議会を設置し、意見を詳細構造に反映させたり、水辺の楽校整備についても、地元自治会、小学校、教育委員会等から成る水辺の楽校推進協議会を開催し、詳細な整備内容や完成後の管理方法について検討するなど、施設毎の特徴や住民要望・意見を反映した整備を行ってきた。</li> </ul>	
	② 事業進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、関係機関や住民等からなる協議会を設置するなど、関係者の意見を取り入れながら、予定事業について平成 20 年代前半の完成を目標に事業を実施する予定である。</li> </ul>	
	③ コスト縮減や代替可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川のオープンスペースへの地域の利用要望、水辺の楽校整備への要望は強く、代替案は考えられない。</li> <li>コスト縮減の観点では、下流部のウォーキングロード整備については、通常の張石工ではなく洗掘にも追随して、経済性にも優れる自然石ブロックマットを用いる。また、中流部の水辺の楽校整備等では、現地採取した自然石や伐採した樹木をワンド等の水際部維持（木工沈床等）に利用するなどの方法について検討中である。</li> </ul>	
今後の対応方針	<b>事業継続</b> <p>これまでに当水系で実施した環境整備事業は、地域住民等に活発に利用されており、地域間交流や住民の河川利用、環境学習の拠点整備として大きな効果が得られている。また、試行的に算出した事業全体の費用対効果やコスト縮減効果も十分である。維持管理等に関する地域の協力も得られており、引き続き、地域との連携をさらに深めつつ事業を継続する。</p>		